

てびねり

四月号

平成21年4月1日発行
株式会社ゆしま陶助

東京上野

国立科学博物館

「シロナガスクジラのオブジェで有名な国立科学博物館本館は1930年（昭和5年）に完成し、2008年に国の重要文化財に指定されています。2004年隣に新館をオープンさせ、人気の催しものによっては上野動物園に訪れた家族連れも、立ち寄ることが多く賑わいを見せています。



国立科学博物館本館とシロナガスクジラの模型
大恐竜展のポスター（読売新聞主催）



3月28日撮影

今、国立科学博物館では、日本初上陸知られる南半球の支配者、と銘打って「大恐竜展」が開かれています。世界最大級の肉食恐竜マブサウルスの成体と幼体が同時にみられる事や、500本の歯を持つニジエールサウルスなど、南半球からやってきた2億年前に生息していた珍しい恐竜たちの展示会で、会期も6月21日までのロングランです。

この国立博物館の周辺は縄文・弥生時代から古墳時代の遺跡の宝庫で何度も発掘調査が行われています。比較的新しい17世紀ころの地層からは、今のベトナムで当時の安南から渡来した「安南染付」の器の破片が出土しています。

国立科学博物館は「大恐竜展」の次の催しは日本人によって発掘された、インカ帝国のルーツ「黄金の都シカン」が開催されます。
（期間7月14日～10月12日）記 佐藤

◆今月の制作風景

◆姉妹で仲良く…



小宮昌子さん（右）
岡部厚子さん（左）

久しぶりにお二人（姉妹）揃ったの陶芸です。

◆平石さんのロクロ



平石規代さん

5客1組の小鉢を2組作っています。ロクロで大きさを揃えるのにちよつと苦戦しましたが、結果良ければすべてよしです。良くできました。

◆ふた物が好き…



大塚美智江さん

最近是小さめのふた物にチャレンジしています。焼き上がりも素敵です。

◆ロクロで薄く…



小林和彦さん

ロクロで作ったマグカップの削り中。かなり薄いですから穴を空けないようにしてください。

◆やだ〜穴が…



石松瑞枝さん

せっかく薄く上手に作ったのに穴が空いてしまいました。誰でも経験していることですから、気にしない、気にしない。

◆形の良い鉢を…



宇都宮裕さん

中鉢を削っています。この所少し厚めに作って形良く削り出す方法で作成しています。

◆四角は大変…



木村紀子さん

四角い箱の形をした蚊取り台を削っていますが、丸いものよりも大変です。もう一息です。

◆これから釉掛け…



中島豊子さん

花入れ・マグカップ・飯碗・茶香炉と並んだ素焼きの作品に、自宅で考へてきた釉薬を手際よく掛けます。焼き上がりが楽しみです！

◆慎重に…



澤三紀さん

練り込みの土をタタラにして作ったマグカップの削りです。薄くなってきたので穴をあけないように気をつけてください。

◆湯呑なの…



山田みずほさん

たっぷり目のお湯呑を今削って形を整えています。高台を大きくしたので安定感があります。

◆初級コースご紹介



金子裕子さん

3月入会です。皆さんよろしくお願ひします。



高橋美絵さん

皆さんよろしくお願ひします。

◆プロの腕前ご紹介



宮崎誠仁さんのプロ顔負けの不忍池の桜並木の油絵です。

◆働きものの窯

皆さんの作品を完成させるためには素焼きと本焼きと2度に渡り800度から1200度の高温で焼成しますが、左の写真は還元焼成の時に出る高温の「紅蓮の炎」です。炎は20センチも外に出ます。



左の写真は炎は収まりましたが、まだ窯の中は1000度近い高温です。皆さんの作品も、この高温に耐えて頑張っています。作品を取り出すまでには、2昼夜ほどかかります。一番左の写真は、窯の横にあるバーナーからプロパンガスを入れて窯内を還元の状態にしている所です。そして700～800度まで温度が下がると窯出しをしますが、しばらくは温度差で作品に貫入の音がピチピチとして、初めて聞く人をびっくりさせています。



今月の作品

写真は実物と大きさが違う場合があります。作品の撮影とコメントは講師のみなさんにお願ひしています。

□佐々木志保子さん 「四方鉢」



黄瀬戸釉に織部釉を掛けた作品。アクセントに入れた織部釉の色が、とても良い色に出来ました。

□小屋謙治さん 「四方鉢」



蕎麦用の四方鉢です。色違いで3点作りしました。モダンな柄に全体に伊羅保釉を掛けました。

□浅沼範子さん 「六角皿」



スプリングを伸ばして作った切り糸で波形が出るように切った板を六角にしました。赤土に白萩釉を掛けたので、きれいに濃淡が出ました。

□大塚美智江さん 「一輪挿し」



白土で作った一輪挿しに、ビード口釉を掛け、上半分に織部釉を掛けました。色合いもとても良いですね。

□石川宏さん 「盃」



細い線の象嵌ですね。白土で作り、削ってすぐに撥水剤を塗り、針で彫って素焼きをし、白マット釉を掛け焼成しました。

□奥村千恵子さん 「鉢カバ」



ハートの形に練りぬいた鉢カバです。抜いたハートを下のほうに貼り付けた所にご注目！釉薬は鉄赤を使用しました。



□内海泰子さん 「小鉢」
六角の小鉢がきれいに出来上がりしました。全体に黄瀬戸を掛け、上に織部を掛けました。少し黄瀬戸が濃くなったので流れた感じに仕上がりました。

□田口治喜さん 「組皿」



土鍋の土で丸板皿を作りました。削りで柄違いの彫りをして、伊羅保釉を掛け酸化焼成をしました。

□山田みずほさん 「デミタスカップ」



右から白マットに黒マット、白マット、トルコ青の還元とそれぞれ特徴のあるデミタスカップです。大きさも手にフィットするサイズです。

□菅野満雄さん 「染付湯呑」



少し大きめの湯呑に染付と上絵仕上げた1点。ぶどうの絵がすばらしい。感じが出ています。

□中岡公子さん 「プレート皿」



アザミを見事に彫りました。葉のギザギザが見事。板作りで表面を凹凸にしてトルコ青を掛け濃淡を出しました。

□瀧澤モヨ子さん 「長板皿」



赤土で作った備前風の板皿です。縁に貝の目を付け、ビード口釉を掛け、還元焼成してきれいな色を出しました。

□山本詩子さん 「ランシード」



アツという間に仕上げました。白土が固くなる前に穴を空け、まだやわらかい内に仕上げてしまいました。黒マット釉を掛け焼きまし

□吉川富美子さん 「茶碗」



少し濃いめの織部ですが、きれいに焼けました。大きさも丁度よかったですね。

□山本登美子さん 「飯碗」



白土に白萩釉を掛け酸化で焼成し、上絵で赤、トルコ釉、黄色、を大胆に入れたお茶碗です。

□宇都宮裕さん 「片口鉢」



大きな口を付けた片口小鉢です。鉄赤と黒マットを掛け分けて還元焼成しました。渋い色が出ました。

□上原由美子さん 「二方押小鉢」



ロクロで形を作り口元にアクセント、内側に櫛目を入れました。全体に呉須を吹いてルリイラボを掛けました。渋い優品です。

□河原京子さん 「メルヘンの世界の人形達」(素焼き)



カトリック信徒で洗礼を受けている河原さんらしく、自愛に満ちた目でメルヘンの世界を作り出しています。聖心から上智大学を出て、趣味で陶芸を勉強したのですが、独特のほのぼのとした作風が人気を呼び、店頭でも売れ始め、ホームページにも載せていますので注目を集めています。

見た事・聞いた事・読んだ事 上野地下駐車場ようやく完成

昭和61年頃、不忍池の下に大駐車場を作る計画がありました。それは自然保護団体に阻止され、その後、紆余曲折ありましたが、この駐車場は地下鉄銀座線の下に作る未曾有の難工事の中、苦勞の末ようやく3月15日に完成しました。一時は1台1億円の駐車場と揶揄され、マスクミを賑わせたりしましたが、それでも工事費は1台当たり5千万円は掛かったと言われています。(写真下 駐車場入り口)



広小路から上野
向かう地下道



この駐車場が完成したおかげで、上野駅から上野広小路・御徒町駅・日比谷線仲御徒町駅まで雨の日でもぬれずに済む大地下道が完成しました。地下には店舗などはありませんが、当陶芸倶楽部からも風月堂前から地下に潜ると上野駅や京成上野駅まで地下道を歩いて行けるようになりました。(写真右上) 駐車場は3層になっていて、車がゲートから入ると、人は降りて車だけスライドしてエレベーターで車庫に降りて行くシステムになっています。しかし、300台収容のこの高コストの駐車場は、大不況の中、果たして地元効果をもたらすのかどうか楽観視出来ない状況が続くようです。(佐藤)



駐車場付近地図(台東区HPから転載)

私が勧める美味しい店

紙面の関係で今月は休みます。